

第7回大野市文化会館あり方検討委員会 議事録

日時：令和7年2月13日（木）19時00分～20時50分

場所：結とびあ2階 201・202号室

1 開会

2 委員長あいさつ

前回、皆様から発散的に意見を出していただいた。今日でまとめていきたいと思うので、この報告書をベースに、どのように変えたいかなど具体的にコメントをいただけるとありがたい。

3 議事

協議事項

- ・文化会館あり方検討報告書案について（資料1）

【事務局より「大野市文化会館あり方検討報告書（案）」の説明】

（質疑応答）

委員長：報告書は7項目に分かれているが、一つずつ確認していく。まず、最後の資料について意見を求める。

委員：資料6の将来推計人口だが、先日の新聞に、去年の日本の新生児数が70万人を切ったという記事が出ていた。また、日本全体の人口推移の中で70万人を切る予定だったのは、2046年であったと記載されており、想定より21年早く70万人を割った。この資料の推計人口は、日本全体の人口推定と同じように2046年に70万人を切るという想定での推定なのか。去年の状況を見ると推計人口が変わってくる恐れがあるのではないか。

事務局：この資料の数字は、一昨年（2024年）12月の段階で国立社会保障・人口問題研究所が見込んでいる。70万人を切るという情報を使っているわけではなく、直近の人口を見ながら将来の人口推計を立てていると思われる。

委員：新聞記事では、21年も早く70万人を切ったということなので、少子化が相当進んでいるのではないか。

事務局：この資料は、国立社会保障・人口問題研究所から発表されたデータを記載している。もし最新の情報が出ていれば、その情報に更新する。

委員長：可能であれば、発表された年月を記載するとよい。

委員長：「1 はじめに」について意見はないか。

【意見なし】

委員長：「2 文化会館のあり方検討のための基本的な考え方」について意見はないか。

副委員長：最初の段落に「外部から著名な方を招へいするイベントを行うような大規模な施設を整備するのではなく」という記述がある。外部から著名な方を招へいするイベントは、必ずしも大規模なイベントとは限らない。自分は、外部から招へいすることは重要であると考えている。例えば、昨年、誓念寺こども園に由紀さおりさんが来た。著名な方に来てもらうことは、大野市の文化に刺激を与えるという点で大切である。この「外部から著名な方を

招へいするイベントを行うような」という文言は削除した方がいいのではないか。「大野市にふさわしい文化施設は、大規模な設備を整備するのではなく」と続けても文がつながると思う。

委員長：これは「外部から著名な方を招へいするイベントを行うような」という記載があると、外部から招へいしてはいけないと読めてしまうということである。「大規模な施設を整備するのではなく」という記載だけにして、「外部から著名な方を招へいするイベントを行うような」という文言を削除する形はどうか。

委員：今の委員意見に同感である。「それを基本的な考え方としました」と断定しているが、最初から大規模にしないという考え方だったわけではない。委員会を続ける中で、予算規模が大きくなっているの、ある程度縮小してはどうかという話になった。「基本的な考え方としました」と断定するのは行き過ぎではないか。外部から有名な方を招へいするのは、大なり小なり規模に合わせて行うのだから、ここに記載する必要はない。市にふさわしい文化施設や、市民のための文化活動ができるということだけでいいのではないか。

委員長：「大規模な施設を整備するのではなく」も消したほうがよいか。

委員：最初はそこまで断定しておらず、そのような認識はない。予算が議会で抑えられたことで、費用を抑えないといけないという認識はあるが、それを最初から基本とするのは疑問に思う。こだわるというわけではないが、外から招へいするとか、大規模が駄目だというようなことは最初から基本的な考え方として断定されたものではない。

委員：「市民が行う文化活動の発表・交流の場づくり、かつ、より著名な方を招へいするということではなく、より高度な文化芸術を鑑賞できる場を維持継続でき、文化振興を継続できる施設を文化会館のあり方検討の基本の考えとしました」という流れになるのではないか。

委員長：市民が行う文化活動の発表の場づくりを継続できるということは、書いてはないけれども大規模にはならないと読めるのであれば、削除してもいいと思う。大規模な施設を整備するという文言があった方が、大規模なものは検討しないと読めるが、削除した方がよいか、もう少し考えた方がよいか。

事務局：市民が行う文化活動の発表の場づくりが大きな目標である。それができる施設というのが基本的な考え方であり、「外部から著名な方を招へいするイベントを行うような大規模な施設を整備するのではなく」という記載方法については、この委員会で検討いただければと思う。「大規模な施設を整備するのではなく」という部分については、第1回委員会で皆さんの認識を確認している。

委員長：「外部からの著名な方を招へいするイベントを行うような」という文言があると、人がたくさん入るイベントを整備するのではないというように繋がるが、これを削除してしまうと「大規模な施設を整備する」という部分が、急に出たように感じる。文章の流れとしては「ふさわしい文化施設は、市民が」というふうにスタートした方が、素直だと思う。「大規模な」を残したいという方がいればお伺いしたい。

【意見なし】

それでは、案として「外部から著名な方を招へいするイベントを行うような大規模な施設を整備するのではなく」という文言を削除し、「市民が行う」につながる形とする。

委員：先ほどの発表の場と交流の場の意見をもう一度伺いたい。

委員：「大野市にふさわしい文化施設は、市民が行う文化活動の発表・交流の場を維持継続し、

かつ、文化や他の文化芸術を鑑賞できる場を今後も継続する施設であることを文化会館のあり方検討の基本的な考えとした」ということである。先ほど少子化の問題があったが、少子化は少子化の問題であって、文化を維持継続する場を無くす訳にはいかないというのが今回のあり方検討委員会の基本的な考え方になるのではないかと思う。市民の活動の場を維持継続し、発表・交流ができる場を維持することが前提であり、かつ、高度な芸術文化の発表を鑑賞できる場をやはり残すべきではないかというのが基本的な考え方であると感じた。

事務局：今の意見については、同じページに、「文化活動の発表の場、鑑賞の場」が記載されている。「多様で質の高い発表を鑑賞する機会を提供し」という部分が、同じような内容であるためお伝えする。

委員長：最初の部分で厳密に書くか、後で詳しく書くかというスタンスの違いかと思われる。一方で、発表の場づくりだけではなく交流の場でもあるということは、この章に入れた方がよい。維持継続という文言が入るとすると、今のように「発表・交流」と入れた方が分かりやすいが、このような軽微な修正でよいか。

【委員同意】

委員長：「発表・交流」というような記載で、交流の場づくりにつなげるという形にしたい。

続いて「3 文化会館のあり方検討に当たっての課題」について意見を伺いたい。

副委員長：(2)の終わりから3行目だが「人口減少が進むことに加え、現文化会館の利用者が年間で2万人台と、多くの市民が利用していない状況であることを考慮した必要最小限の客席数を検討する必要があります。」という記述がある。この記載は非常に違和感がある。その根拠となる資料を作ったので、皆さんに配布したい。資料に書いてあるとおり、人口3万人、客席数600席規模の文化会館の年間の利用者数が一般的にどれぐらいが適当か調べた。大野市のような小都市において、文化会館のイベントは土日が主になると考えられる。年間の土日の回数は52回、前日にリハーサルして当日本番というようなことを考えると、大体52回である。その内、年末年始やお盆、ゴールデンウィーク、豪雪地帯の冬季間を除くと年40回程度が土日にイベントを行うことができる回数になる。それを規模別に考えると、大規模なイベント、例えば著名なアーティストが来て、満席になる回数が年2回あると、これで1,200人となる。また、小規模なイベント、例えば、地元の文化活動によるイベントが考えられるが、これが大体350人から400人程度の集客があり、400×35回で14,000人になる。また、更に小さな規模のイベントが200人程度で、これが年に3回ぐらいあるとすると600人になる。これで40回になる。その他、団体の練習に使うとか、地域の会議、その他いろいろなことで利用すると仮定すると50人×100日で5,000人になる。それを全部合わせると、20,800人になる。資料14ページを見ると、令和5年度文化会館の利用者数は22,969人で、ほぼ23,000人である。23,000人は、人口の8割である。「多くの市民が利用していない状況」という記載は違和感がある。人口の8割が文化会館を利用しているが、これを市民の3万人に満たないということを根拠にするのであれば、客席600席の文化会館に満席のイベントを年50回しないといけない。なぜ、3万人を基本としているのかが分からない。ここは削除していただきたい。人口減少が進むからコンパクトな施設にする必要があるという記載でいいのではないか。令和

4年、令和5年とだんだん増えている。コロナ禍により令和2年、令和3年は非常に少ないが、令和5年は増えており、令和6年も増える可能性がある。利用者数の部分については、非常に違和感があるので削除していただきたい。

委員長：2万人はどのように計上されたのか事務局から説明願う。

事務局：イベントごとに延べ人数をカウントしているのですが、入れ替わりの人数すべてが入った延べ人数である。状況を伝えると、文化会館の平成元年度の利用者数は、延べで48,533人、平成2年度が49,831人、平成3年度は53,841人と、5万人前後が続いていたが、そこから徐々に減っている。このような状況を全体的に見て、利用者数が減ってきているという表記にしている。平成10年ぐらいから5万人を切っている。平成20年度で40,864人、平成22年度で44,979人、平成25年度で34,731人となり、それから3万人台と徐々に減ってきているというところである。

委員：2万人台でほとんどの人が利用してないという記載はおかしい。コロナ禍の部分をカウントしていくとそうなるだけで、今聞いたところによると2万人台ではない。なぜ2万人台なのか。

事務局：平成30年度ではもう3万人を切っており、2万人台と記載をしている。コロナ禍前の段階で2万人台になっている。

委員：2万人台というのは、2万人から3万人という思いで記載しているのか。意図が分からない。削除してもいいと思う。人口3万人の規模で、延べ2万人の利用があるが、体育施設やどんな施設を含めても、それだけ利用のある施設が他にあるのかと思う。誤解を招くような記載は削除した方がいいのではないかな。その方が語弊がない。

事務局：どうしてもこの2万人台ということに記載するという事ではない。ただ、状況として、利用が減ってきており、その結果、今の文化会館の規模より客席数を減らす検討が必要であるという文章につながる。この記載については、委員会の中で議論いただきたい。

委員長：今の話だと、コロナ禍は分からないが、徐々に減っていることは事実である。コロナ禍を除いて、平成30年度だと28,000人台だったのが、令和5年度に22,969人ということである。10年間分ぐらいの資料あると数字として分かりやすいが、例えば、利用者が徐々に減ってるということが事実であれば、「利用者が徐々に減っている状況であるということ」を考慮した必要最小限の客席数を検討する」という書き方もあると思う。

副委員長：この部分は、「人口減少が進むことから、コンパクトな施設を検討する必要があります」でいいのではないかな。「2万人台で多くの市民が利用していない」とは記載せずに、人口減少が進むことから、コンパクトな施設を検討するという事でいいのではないかな。第1回委員会の開催時に市長の発言にもあったように、コンパクトな施設を検討すると記載すれば、簡潔で内容をきちんと記載しているのではないかな。

委員長：「人口減少が進むことに加え」と記載があるが、「人口減少が進むことから必要最小限の客席数を検討する」や「人口減少を考慮した必要最小限の客席数を検討する」という書き方でよいか。

副委員長：「必要最小限」ではなく、「コンパクトな施設」でまとめた方がいいのではないかな。

委員長：「コンパクト」でもいいと思う。他にご意見はないかな。

委員：資料3の現文化会館の利用者数を考える場合に、文化会館の全利用者数が下から3段目にある。今回計画しているのは大ホールであり、会議室は他でも代用できるので、大ホール

に限定すれば、仮に文化会館を建てたとしても、大ホールを使っている人が対象となる。そうすると、令和5年度は14,000人であり、人口の約半分である。大野市民の半分が年1回文化会館に行ったということである。それを市民が利用している施設であると言うかどうかについて、自分は疑問を感じる。むしろここに記載しているように、あまり利用されていないという表現が正しいのではないか。

委員：この文章は、多くの市民が利用していないという断定的な表現になっている。「コンパクトに」や「必要最小限」という事務局の思いが強く最後の1行に出ている。文章にそれは必要はない。現実をそのまま伝えて、利用者が2万人であろうが1万人であろうが、多くの市民が利用していないと記載する必要はない。読んだ人がどのように考えるかである。文章の揚げ足を取るような意見で申し訳ないが、その辺りをもっと緩やかにして、事実を記載し、最後のまとめで締める形にしないといけない。事務局の思いが入っているのが現実である。それが見えるので、こういった意見が出てくる。もっと緩やかに記述するとよい。最後に結論として記載するのであって、途中はあくまでも議論の過程を書くだけでよい。

委員：利用されていないという意見に反論するわけではないが、文化の交流の場や発表の場だけでなく、練習などのプロセスも文化会館でしかできないことである。自分は文化会館を利用しているが、十数人が年50回しても、500人程にしかならない。文化施設の利用は、練習等の普段の活動も含まれる。どうしても発表だけで話が進むが、普段の練習や活動の交流の場というのを考慮していないと思う。その辺も事務局は考慮していただきたい。

委員長：自分の意見だが「利用していない」というのは表現としては強いので削除し、これは人口減少についての項目なので「人口減少が進む」ということは記載する。また、「必要最低限もしくはコンパクトな客席数」でよいと思われる。利用人数についての項目があれば、利用人数についても記載した方が正確だと思うが、あまりネガティブな言葉を記載しない方がいい気もする。例えば、「人口減少が進むことを考慮した必要最低限又はコンパクトな客席数を検討する必要がある」という感じでどうか。

事務局：(1)で「必要最小限のコンパクトな施設規模」と既に記載しており、同じ表現になる。

委員長：「コンパクト」や「必要最低限」という文言を記載しないのであれば、「人口減少が進むことから、それに見合った客席数を検討する必要がある」でよいと思う。人口減少については、締めないといけないので、このような形で修正してもよいか。

【異議なし】

委員長：次に「4 文化会館整備基本計画における整備案について」で意見があれば伺いたい。

【意見なし】

委員長：次に、「5 文化会館の整備候補の調査結果」について、意見があれば伺いたい。この部分については、事務局から前回の議論内容も含めた記載とした説明があり、丁寧に記載されていると思う。

副委員長：10ページの「(4) 現文化会館ホール利用団体の聞き取り調査結果について」で、最後の段落に「結とびあ多目的ホール改修案による整備の要否について、この結果を踏まえて検討する必要があります」と記載がある。ここは「結とびあ多目的ホール改修案は、委員会では賛同が得られなかった」でいいのではないか。改修案については、皆さんが否定的であったので、結果を踏まえて再検討する必要はないと思う。

事務局：5のところは、委員会の議論の経過を記載している。ここでは、「この結果を踏まえて検討する必要がある」としているが、前回の委員会でも説明したとおり、12ページの6の結論の中では、「事務局からは、文化活動の発表の場を確保するため結とびあ多目的ホールの改修が提案されましたが、整備を必要とする利用者が少数であることや、改修案の整備では利用者が求める機能を確保することが、難しいと考えられます」という結果にしている。(4)の部分は、委員会の議論中での経過として記載しているが、それを検討した結果を12ページの6で「委員会としては難しいと考えられる」という記載をしている。

副委員長：それであれば、6の記載を変えた方がいい。

委員長：5は議事録をベースにしながらか、議論の流れを整理するという項目である。

委員：(4)の一番最後の部分だが、経過報告ということであれば、経過の中で、体育施設の共用等でスケジュール調整がつかないことが問題であるということをつけ加えてもらわないといけない。「整備の要否については、この結果を踏まえて検討する必要があります」だけでなく、スケジュールの調整や音響等の問題があり難しいという認識であり、言葉足らずではないかと思う。なぜこうなかつたかの経過を具体的に記載してほしい。

委員長：(4)については、ヒアリングした結果を表にまとめていたと思うが、その結果だけを記載している。その他のことまで記載すると、(4)のタイトルと反してしまうので、あまり広げない方がいいのではないか。

委員：それで結構である。6でつけ加えていただければと思う。

委員長：5番の11ページまでのところで、他に意見はないか。

委員：「(5)市内既存施設活用の検討について」で、会議で検討した時に、めいりんや平蔵の駐車場の問題や、めいりんの学校施設とのスケジュール調整、構造的な問題などいろいろな問題点があったという記載がないと6につながらない。6で記載するか、ここで記載するか明確にしていきたい。

事務局：今の意見は、(5)のところで状況を記載するということか。

委員：今の内容が、6のところに記載がないので、(5)で記載すれば、6ではもう少しコンパクトな話になるのではないか。

事務局：全体的に調整ということになると思うので、意見があったということは了解した。

委員長：他に意見はないか。

副委員長：「(6)現文化会館の耐震補強及び長寿命化の検討について」で、いきなり耐震補強が記載されている。なぜその耐震補強で現文化会館の長寿命化を図る必要があるかというかと、市内の他の既存施設で、現文化会館の利用者数をカバーすることができないためである。既存施設だと主に学びの里「めいりん」の講堂を頭に描いているが、その利用状況は、前回資料を示した通り一杯である。空きがなく現文化会館の利用をカバーすることが難しいから、現文化会館の耐震補強をして文化会館の存続を希望するという意見に繋がったと思う。それを何も記載せずに、いきなり耐震補強及び長寿命化が記載されているので、この経過がほしいのではないか。

事務局：第6回の会議後、施設の利用者、利用団体の利用実績をまとめた。令和6年1月4日から令和6年12月28日までの360日間で、画面資料のとおり、午前・午後・夜間の3つの区分に分けて、文化会館全館の利用や結とびあ多目的ホールやその他の部屋の利用、

そして、めいりんの和室や洋室、講堂の利用、さらに参考に平蔵の利用を入れた資料である。文化会館の赤い枠が開催されたイベントで、例えば1月5日から7日までは20歳のつどいで使われており、2月17日、18日は生活発表会で使われている。3月8日、9日はピアノの発表会で使われていたなど、すべてを記載した。この結果、令和6年中の文化会館の大ホールの利用は37回であった。例えば、先ほどの20歳のつどいを結とびあ多目的ホールに入れようとする、この青枠の中に入ることになる。ここがスポーツの練習であればイベントの予約を入れることは可能だが、バレーボールの試合が入っている。こうなるとバレーボールの試合はどこかに移動してもらわなければならない。そうすると、2月2日から4日に掛けて練習だけのスペースがあるので、ここに移動してもらうことで調整することになる。また、例えば、先ほど文化会館ホールの2月17日の生活発表会については、めいりん講堂の青枠に空きがあるので利用が可能としている。また、2月24日の文化会館ホールの利用もめいりに移動してもらうことが可能である。文化会館の37イベントの中で、結とびあ多目的ホールに調整可能なイベントは15イベントであり、めいりに移動可能なイベントは19イベントある。結とびあ以外の15イベント以外に、他の部屋、例えば305・306号室に移動可能なものが3イベントで、15+19+3の37イベント全てが調整可能と考えている。さらに、この青色で塗りつぶした部分は、今回調整はしていないが、ここにもイベントを入れることが可能という部分である。これは、結とびあ多目的ホールで5か所、めいりんでも5か所ある。因みに、令和6年は、市制70周年の記念の年だったので、いろいろなイベントが文化会館、結とびあ、めいりんで行われた。例えば、5月に市地域文化課で文化会館にNHKのど自慢を呼んで開催した。その他、きらめきフェス24、市制70周年式典、こどもフェス、エコサイエンスショーなど、向こう10年開催がないイベントが、結とびあで5か所、めいりんんで3か所あるということで、しばらくは枠が多くなるため調整が可能と考えている。また、文化会館で行っていたイベントを結とびあ多目的ホールでやることによって、今までスポーツの練習をしていた団体が追い出されてしまうことが考えられるので、体育施設の利用実績も調べた。めいりん、有終南小学校、開成中学校、有終東小学校、下庄小学校、青少年教育センター、乾側小学校、小山小学校、上庄小学校、B&G海洋センター、また、遠いところでは富田小学校、尚徳小学校、阪谷小学校、和泉小学校の年間利用実績を調べた。平日の空き数よりも、土日の空き数の方が全体的に多い。例えば、先ほどの、1月5日の結とびあ多目的ホールのスポーツ練習は、午前中に1コマが入っており、午後に2コマ、夜間に2コマ入っている。これをどこかに移動してもらうとなると、1月5日午前に空いているのは22施設あり、午後は14施設、夜間は6施設ある。年間を通して、結とびあ多目的ホールを利用されていた方が移動する場所は、土曜日午前であれば平均9.4施設あり、午後であれば10.9施設あるため、スポーツ団体の利用調整も可能だと考えている。

委員長：そうすると、(6)はあまり書かない方がいいという判断でよいか。事実としては、このような形で検討したということに記載するという報告書になっていると理解した。他に何かあるか。

副委員長：今、勝手に移動し、空いているから入れるというのは分かるが、利用団体が「分かりました」というのは別の話である。第5回の会議の中でも説明があったが、空いてるからそこ

に入れるという話ではない。利用者のいろいろな事情があり、例えば、9月の第3でない
とできないといった日の設定がある。ここが空いているから、そこに入るというようなこ
とではない。文化会館の利用状況を、前回、前々回に資料として出した。4月から11月
までが非常に多い。冬季間もポツポツとあるが、主にやはり4月から12月初めぐらいま
までである。その期間で、その日でなければできないということが当然あるので、そこに必
ずしも入るというものではない。いろいろ状況があって、難しいというのが現実である。
もう一つ言いたいのは、箱がやはり大事である。文化会館という箱があるからやりたいと
思うし、箱自体が晴れの間である。空いてるからそこに入りますということではない。

委員：事務局の言いたいことは十分分かるが、この調整を事務局がやってくれるのであればいい。
勝手にしてくださいではないと思う。調整会議をしないといけない。調整会議をしないとい
けない中で、体育、文化団体だけではなく、使っている団体にも理解を得て、調整でき
るのかと思う。先ほど言ったように、練習でも使うので、練習は毎週火曜日と土曜日にし
ているのを、この週は木曜日に行ってください、この週は月曜日に行ってくださいという
調整を責任持ってやってくれるのであれば結構である。これは単なる意見である。

委員長：(6)についてはよろしいか。

【意見なし】

委員長：次に12ページ「6 文化会館のあり方と方向性について」のところで意見をお願いした
い。

副委員長：4段目の「事務局からは、文化活動の発表の場を確保するため結とびあ多目的ホールの改
修案が提案されましたが、整備を必要とする利用者が少数であることや、改修案による整
備では利用者が求める機能を確保することが難しいと考えられます」という部分だが、「考
えられることから、賛同は得られませんでした」を付け加えたらどうか。結とびあ多目的
ホールの改修案は、無理だというような意見があったと思う。

委員長：あり方と方向性についてなので、委員がどう思うというよりは、整備をどうするかという
ことである。記載方法は議論するとして、このままでもいいと思う。

副委員長：委員の中からも、この件については意見があったと思う。

委員：この行も「難しいと考えられる」と断定している。この委員会としてはどうするべきかとい
う結論は出せない。署名集めで反対運動があった中で、この委員会で最終的に結論を出
すのは難しい。結とびあでは無理だという意見は自分は一致していないと思う。利用す
る方が精一杯意見を出して、結とびあが無理かどうかは、使っていないので分からないが、
委員会で一致という言葉は使えない。利用者は、0か100を求めているが、予算がない
中で、100までではなくても、60か70で何とかしてできないかということを検討し
ているのである。署名活動もして真剣にやっている方が、文化会館がほしいのは当然分か
る。しかし、100でないのであればいらないという記載をすると物事は進まない。10
0を求める人でも、60、70で我慢という言い方は悪いが、我慢してもらおう分、十分拾
ってもらおうというような記載にすればいい。最終結論については要望しますということ
でまとめてあるので、その辺りの書き方になると思う。断定したような言い方や一致したよ
うな言い方をするが、委員の中ですべて満場一致は、今まで何回かやってきても出ていな
い。予算のことで説明があった段階で、急激に考え方が変わってしまったというのが正直
なところである。最後に言いたいのは、100を求めている人には、60か70でもっと

工夫した使い方、要望の仕方、予算の使い方を相談してもらい、やっていただくようなことでいいのではないかと思う。100を求めると話は進まない。

委員：全体的に、委員会で話した内容をそのまま文章化しているかというところではない。事務局が事務局の思うように内容をかなり入れているような感じがする。特に、6の下から6行目は、この前の委員会の中では、耐震の調査をもう一度やりましょとかなりの方が賛同してくれたと思う。しかし、この表現だと、一人の意見のように受け止められる。この報告書が提出された際に、「一部の意見ではないか」というニュアンスで受け止められるような表現ではおかしい。この委員会の素直な意見等を事務局がまとめるのであれば、事務局の意図的な文章にしてはいけない。

副委員長：6の下から9行目だが「また、委員からは、現文化会館を耐震補強及び長寿命化する方法について、平成20年度に耐震診断調査した結果がE判定であり、耐震補強及び長寿命化には高額な事業費が見込まれるものの、技術の進歩により事業費が抑えられないか調査してほしいとの意見がありました」の部分について、「本委員会では、現文化会館を耐震補強及び長寿命化する方法について、平成20年度に耐震診断調査をした結果がE判定であり、耐震補強及び長寿命化には高額な事業費が見込まれるものの、耐震補強の技術も進歩し、多様化していると思われるので、耐震補強して、現文化会館を長寿命化することが望まれる。そのためにも、耐震について再調査をする必要があるとの意見が大勢となりました」という記載はどうか。

委員：現在の文化会館が耐震補強してもE判定だから、安全性を保てないというのは、前回の調査で決定した事項である。それを踏まえ、我々は考えるべきである。それを、安全であり行うことが可能とすることは、委員会で出す意見としてはおかしい。いいものがほしいということは、自分も同じ意見である。しかし、最終的に責任を持つのは、財政的にも、安全面でも行政である。その行政ができないと言ってるのであれば、他の方法を考えないといけない。耐震補強を再調査する意見を採決するのは、事務局の言うことを否定してるから、どれだけ言っても、それは可能ではないと思う。希望的な意見であって、現実的ではないと思う。

委員長：今の話は、この文章のままの議論だったと思う。結局、技術が進んでお金が掛からないかもしれないという話があり、だから、もう一度調査してもらえれば、何とか改善するのではないかという意見であった。それでもお金が掛かるのであれば、ここを使うかどうかはそのタイミングで決定しなければならないと思う。この委員会としては、せめてもう一度調査をしてほしいというようお願いをするスタンスだと理解している。

委員：先ほどの過去の結果報告ありきの意見は尊重する。ただ、その当時の報告から15年が経過している。技術の進歩があって、いろいろな所で耐震補強して使っているところが多くある。15年間の技術を無視して、15年前の報告書を尊重しようとするのは少し考えなければならないということで、前回皆さんで話し合いをしたところである。そこを了解していただきたい。

委員長：自分としてはこの記載が適切だと思っている。その他、この件でもいいが、この部分をこう直してはどうかといった意見をもらえるとありがたい。

委員：委員会からの報告書であれば「委員からこのような意見がありました」や「委員から他の既存施設の利用があるとの意見がありました」、また「委員から耐震補強の意見がありま

した」というのはおかしい。6で報告書としてまとめるのであれば、「本委員会」や「委員たち」にしないといけない。これだと単独の委員が何か言ったという感じになる。先ほどもあったように、100%ではないかもしれないが、また10分の5の意見かもしれないが、報告書を上げていくに当たっては、個人の意見でやったと捉えられ、委員会の報告書としては成り立たないのではないか。

委員長：「委員からは」が2つ、「事務局からは」が2つ記載があると思うが、「委員会の中での議論では」という記載であればよいか。最後に、「本委員会としては」という文章で締めているので、議論の中でこういう意見があったということであれば、事実なのかなというふうになると思う。確かに、この「委員からは」という記載だと、一人が言ってるような感じもある。そのような形での修正でよいか。

【意見なし】

委員長：今、1から7までの議論をしたと思うが、まだ発言されてない方から一言ずつもらいたい。

委員：10ページの「(5) 市内既存施設活用の検討について」だが、先ほども意見があったとおり、市の施設の情報が一元化されていない。調整会議に出ても、駄目ならそこで諦めるしかない。他にめいりんや結とびあが使えたとしても、その情報を教えてもらえない。その場でパソコン等で見られるのであれば決められるが、この会場で取りに行くと駄目だったら、また次の会場に取りに行かなければならない。とても不便である。施設を代替で活用しようと思うのであれば、各施設が一本化された情報がほしい。その場で選択できる情報がほしい。

委員長：それは前の会議の中でも話が出ていたと思うので、この10ページのところに追記するとともに、多分この最後のあり方のところで、「既存施設を活用する方法があるという意見がありました」の後に「調整について、市のほうに主体的にやりやすいようにしてほしい」という文章をもし入れるのであれば、自分と事務局にらせていただけるとありがたい。市民が利用しやすいようにしてほしいというような要望を入れられればと思うが、おそらく、担当部局を超えた市全体に対しての話になる。どのように文章を入れるかは、事務局と自分にらせていただきたい。

委員：資料をもらったときに、よくここまでまとめられたと思った。この1年半から2年掛けてずっと自分の中でもやもやしているのが、国庫補助が受けられないという話があり、その時に自民党の裏金問題があった。その裏金を使えば文化会館が建つのではないかとか、アベノマスクで何億円使ったのかなど誰も未だに何も言わないおかしなお金がいっぱい動いている。それを大野に当てはめると、閉園となっている保育園や学校の改修等、そのお金を違うことに回せるのではないかという思いがある。文化会館については、大野市全体の政治全体を見直さない限り、どうにもならないのではないかというのが意見である。

委員：先ほど情報の一元化の話があったが、各施設がそれぞれで管理しており、調整会議もその施設の調整会議しかないので、市にいろいろ考えていただきたいということは、同じように要望する。施設の整備だけではなく、ソフト面で市も努力していくようなものが見えると、委員の皆さんも納得できるかと思う。

委員：12ページの6で「本委員会では」、「委員会としては」、「事務局からは」、「委員からは」、「本委員会としては」とあるが、少し整理整頓されて読みやすいものにしてほしい。例えば、委員会から4つか5つに集約された意見があると思う。先ほどもあったように、多数

決をとった覚えはないので、そういう意味では、「委員からこんな意見があった」に対して、このような課題が挙げられるというまとめでいいのではないかと。結局なんなのかという部分が多いので、そういう意味では、前の方の訂正も大事だが、6のまとめでこんな意見が出たが無理だとか、委員会ではここまでやったというのが見えるものにしていただくとありがたい。

委員長：事務局と自分も読みやすいように修正させてもらう。

委員：耐震の調査を是非してもらいたいが、情報の一元化について、市民が全施設の利用状況を確認できない。一つ一つ足を運んで行くというのは非常に効率的に悪いし、今の時代ソフトをうまく活用すれば、どの施設がいつだったら空いてるとか、そういうのが一目で分かるようなものが今後できるのではないかと思う。文化会館の新設はできない場合でも補強はしてほしいが、それがどうであっても情報の一元化の意見は取り入れていただきたいと思う。

委員長：他に意見はないか。

【意見なし】

委員長：若干の修正はあるが、多くの意見をいただいた。この大野市文化会館あり方検討報告書について、全体的な内容については承認いただけたと解釈してよろしいか。

【異議なし】

委員長：それでは、大野市文化会館あり方検討委員会としての報告書を修正した上でご承認いただいたということにする。修正が必要な箇所は、自分と事務局で責任を持って修正する。

4 その他

事務局：本日の第7回で修正した報告書案は、委員長と調整後に全員に配布してチェックしていただきたいと思う。この後としては、3月になるかと思うが、委員長から市長に報告書を提出していただくことを考えている。それも委員長と日程を調整して決めていきたい。

5 閉会あいさつ

副委員長：令和5年から2年間の長期間に渡り、この文化会館のあり方について、いろいろ検討いただき大変お疲れ様であった。市長の意見によって、文化会館あり方検討委員会も、一時どうなるのかというような、大きく方向転換をする事態になった。そのあと、結とびあの改修案や既存施設の利用等があったが、どうにかこの文化会館あり方検討委員会報告書が収まりそうで、大変ご苦労様と申し上げたい。自分はこの立場にありながら、委員長には大変なご迷惑をおかけしたと思っている。文化協会会長という立場もあるので、いろいろな文化団体や文化活動している皆さんのご意見をよく聞きながら、この委員会に当たらせていただいた。そのようなこともあって、事務局に反対する意見も多々申し上げたが、その点については、ご理解をお願いしたい。また、令和8年度には文化会館が使えないという切羽詰まった状況である。我々文化活動をしている者にとっては、令和8年度以降どうするかが大きな問題である。この点についても、市当局を初め、いろいろな方々のご協力をいただきたい。ぜひとも文化会館の耐震補強が実現するように、事務局にもご尽力をお願いしたい。大野市には文化会館が必要である。また、地域のコミュニティの場としても、このような施設が必要であると強く思っている。その点についても、いろいろと難しい点

はあるかと思うが、ご尽力をお願い申し上げ、最後の挨拶とさせていただく。